神戸新聞 2015年09月25日 金曜日 面名 くらし １３ 21ページ

里山を楽しむ ❸

旅をするアキアカネ

秋風を感じるようになると、急に田んぼが黄色くなります。でも、田園の黄金色にのんびり見とれていると、すぐに収穫が終わって、あたり一面セピア色。とにかく里山の秋は、慌ただしいのです。そんな、ハードスケジュールをこなすのが、旅をするトンボ、アキアカネです。

アキアカネは、6月ごろに田んぼで誕生します。梅雨明けとともに、山に移動して、真夏は、山頂にとどまっています。暑いのが苦手らしく、避暑地を求めて登山するようです。夏休みに高原などでたくさんの赤トンボに出会うことがありますが、それは、ほとんどがアキアカネ。

アキアカネが、山から下りてくるのは、田んぼが色づくころ。黄色い海原を悠々と群れ飛ぶ光景を目にします。山にいた時、黄色がかっていた体は、赤く色づき、赤トンボらしくなっています。特に腹部は鮮やかな赤色になります。晴れ姿をしたアキアカネたちは、稲の上を飛びながら雄と雌が出会い、連結飛行をするようになります。

しばらくすると、稲の刈り取りが終わり、雨がしとしとと降る日がやってきます。アキアカネたちは、待ってましたとばかりに、小さな水たまりを目がけて集まり、産卵開始。雄が腹部の先端を雌の頭部にひっかけて、連結した状態で飛翔し、繋がったままで雌が腹部を水たまりに叩きつけます。ストンストンと、リズミカルな行動は、何ともあっぱれ。よほど気が合っていないと、うまくいかないでしょう。

田んぼは広いですが、水たまりができている所はまばらなので、お天気が良い日は、水たまりは、アキアカネのカップルでいっぱいになります。

気温が少し下がってくると、産卵合戦は終わります。そのあと、秋の乾いた風に見舞われ、田んぼは、干からびてしまうことがあります。水がないと卵が死んでしまうのでは…。ご心配なく。アキアカネの卵は、カプセルのように頑丈で、表面は、乾燥に強いのです。

こうして、厳しい冬をのりきり、翌春、田んぼに水が入るころに孵化し、新しいスタートを切ります。

田んぼと山を行き来するアキアカネは、里山の旅人です。

（今森光彦・写真家）

＝原則第4金曜日に掲載します＝

稲穂に止まり羽を休めるアキアカネ（撮影・今森光彦）

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名前【　　】

① アキアカネの一生についての次の文の（　　）に適切な言葉を入れなさい。

アキアカネは、（　　）月頃に（　　）で誕生します。（　　）とともに（　　）に移動して、真夏は（　　）にとどまっています。山から下りてくるのは、田んぼの（　　）ころ。山にいたとき（　　）色がかっていた体は、（　　）色づきます。やがて、雄と雌が出会い、（　　）飛行をするようになり、稲刈りが終わった田んぼの小さな水たまりを見つけて（　　）します。雄が腹部の（　　）を雌の（　　）にひっかけてつながったままで、雌が（　　）を水たまりにたたきつけます。翌春、田んぼに水が入るころに（　　）し、新しいスタートを切ります。

② アキアカネの卵が産みつけられた田んぼは、干からびてしまうことがありますが、卵は死ぬことはほとんどありません。それは、なぜでしょう？

③ この記事を読んだ感想を書きましょう。

NIEワークシート／小学校高学年～中学校／理科、総合、朝NIE